

## クリニックだより2017年 4月号

なかじまクリニック小児科・循環器科の中島です。

ようやく、桜も開花し、昼間は暖かい日和になってきました。入園や入学を控えているお子さんをお持ちの御両親は、新年度の準備にお忙しくされていることと思います。

クリニックでは、インフルエンザの流行も急激に終息に向かい、おだやかな診療体制となってきました。一昨年から開始した、クリニック駐車場の改築、クリニックの移転、旧クリニックでの病児保育室開設と、2年間にわたり、いろいろ、ご迷惑をおかけしましたが、特に事故もなく、スムーズに進行し、新たな気持ちで、開院以来13回目の春を静かな気持ちで迎えようとしています。

病児保育室は、昨年6月14日に始まり今年3月30日まで、190日開室(1日台風で休室)しました。入室0名の日が52日あり、新たなクリニックのスタッフである保育士さんたちも、“自分たちの仕事に不安を覚える”こともありました。生後7か月から9歳、のべ309名の病気のお子さんを、無事、お預かりすることができました。私は、残念ながら、保育中のお子さんに、診療中と同じように“バイバイ”と手を振り、“ハイ、タッチ”という昭和的な言葉で、あいさつをかわすことぐらいしかできませんが、今後も、こどもたちが安心して過ごせるように、クリニックの看護師・受付スタッフとともに努力してまいりますので、ご利用の程お願い致します。

小児科クリニックの役割は変わりつつあります。単に発熱や病気を診療することだけでなく、こどもたちが、“元気で、安全・安心に、豊かに”成長できるか？ この目的に向かって、どのようなことができるか？ これからも、模索していきたいと考えています。お子さんのことに関して、何でも結構です。気になることがあれば、クリニックスタッフにまずは、御相談下さい。では、また。

なかじまクリニック小児科・循環器科



なかじまクリニック小児科・循環器科

